

中村社寺 創業970年(天禄元年) 寺社建築の伝統 千年守る

百年企業

@愛知

企業プロフィール

中村社寺
 (神社、寺院の建築)
 愛知県一宮市城崎通7の4の3
 創業 970年
 井川清茂社長(金剛組
 常務)
 加藤雅康専務=写真
 従業員 25人
 (2010年10月末)
 売上高 10億円(10年3月期)



平安時代の970年(天禄元年)の創業だ。天台宗が尾張に大伽藍を創建した年で、先祖が京都から今の愛知県一宮市に移り、棟梁を務めたい。創業約1040年。帝国データバンクの長寿企業実態調査によると、日本で7番目に古い企業とされる。

代々、宮大工の棟梁を務めてきた。「室町時代の法隆寺4大工といえば、厨子、金剛、多門、中村でした。その中村の系列だと考えています。寺に残る記録で、元禄時代までは確実にたどれます」。前社長の中村進相談役(75)は、誇らしげに語る。

中村喜右エ門は、幕末から明治にかけて活躍した棟梁。その喜右

エ門の跡は、三男の豊三郎が継いだ。昭和初めには国策によって朝鮮半島、旧満州にも次々に神社を築いた。ヒノキは木曾で切り出し、船で運んだ。

豊三郎とともに神社の建築にあたった息子たちは戦後、日本に戻って中村木工所を設立した。だが、寺社は新築どころか造営、改修も減少。仕方なく一般建築物も受注し、社名は中村建設に変えた。2代目豊三郎は棟梁にはならず、社長として経営に徹した。

木造の本格的な寺社建築を再開するのは、約30年前、京都にある智積院の工事を手がけてからだ。専務だった中村相談役が、全国の真言宗智山派を中心に、寺の改築

(※)

築学を学んだ。

バブル景気のころ、中村建設の完成工事高は150億円に達した。寺社建築は、このうちの30億円ほどを占めた。しかし、その後の建設不況で事業が行き詰まる。2007年に寺社建築の部門を「中村社寺」として残し、創業1400年を超え、「世界最古の企業」といわれる寺社建築会社、金剛組(大阪市)の子会社になった。中村建設本体は破産したが、こうして「技」は伝承された。

いまは中村さんの娘婿である加藤雅康専務(48)が、事業を統括している。景気が悪いと寄進が減って寺社の新築や改築は減るが、修復は欠かせない。金剛組などと共同で、本堂などの基礎部分を免震構造にする「エア断震システム」を開発。その営業にも力を入れている。(六郷孝也)

(※) や修復、増築を受注した。

寺には本堂、阿弥陀堂、観音堂、山門、鐘楼堂、書院、客殿、庫裏など、神社には本殿、拝殿、社務所、水舎、鳥居などがあり、これらすべてを手がける。新築された埼玉県蕨市の三学院三重塔、東京都世田谷区の伝乗寺五重塔は、設計から施工まで担当した。

1人の棟梁が10人、20人の宮大工を率いる。「2時間の鉋がけのため、8時間は刃を研いでいる宮大工もいました」と中村相談役。中村さん自身は、北海道大学で建



中村社寺が建てた三学院三重塔と中村進相談役=埼玉県蕨市北町3丁目